スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山口県美祢市

自 治 体 名 ： 山口県美祢市
担 当 課 名 ： 教育委員会事務局生涯学習スポーツ推進課
電 話 番 号 ： 0837-52-5261

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	472.64㎢
人口	20,404人
公立中学校数	5校
公立中学校生徒数	387人
部活動数 （運動部活動のみ）	17部活
地域クラブ活動数	10クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

急激な生徒数の減少に伴い、生徒数、部活動数が減少の一途をたどり、12年前の平成25年には、市全体で生徒数647人に対し中学校8校あったものが、今年度は生徒数387人、中学校数が5校となっている。また、令和7年度の生徒のうち過半数にあたる207名が1校に在籍し、残りの生徒が他の4校に在籍している。

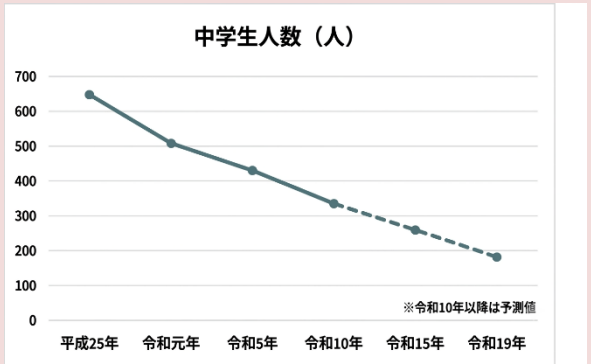
1校は中規模校、4校は小規模校であることから、1市2町が合併した本市では中学校が点在し、広域にわたっており地域クラブ活動の際の移動手段の確保が大きな課題となっている。また、安定した指導体制の構築のための指導者の確保が非常に大きな課題である。

地域移行の現状として、令和6年度には、休日の活動について、学校部活動として存在していた全ての種目において地域移行が実現した。平日の活動については、令和6年度に剣道、サッカー、軟式野球、水泳が地域移行を実現し、令和7年度には陸上競技、弓道の地域移行が実現した。

今後の状況について、令和8年度当初にソフトテニスの地域展開を行うこととしている。

また、令和8年度末をもって学校部活動を終了し、令和9年度当初からバレーボール、卓球の地域展開を目指し、体制構築等を進めている状況にある。

本市の中学生人数の年次変化



美祢市内中学校生徒数

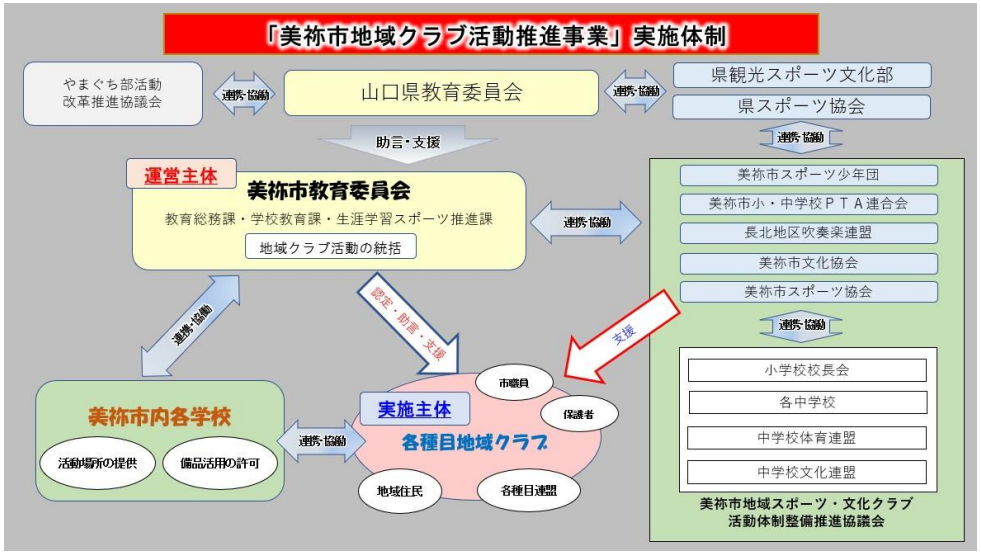
令和	5年度	6年度	7年度
伊佐中	32	29	26
厚保中	28	29	23
大嶺中	234	226	207
美東中	86	94	83
秋芳中	50	50	48
中学校計	430	428	387

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・生涯学習スポーツ推進課・部活動改革推進室

部活動改革の主管、予算措置、県・国との連絡調整、地域クラブ活動の指導者や指導

競技団体との連絡調整

・学校教育課

学校との調整・連携等、学校に関する事項

・教育総務課

地域クラブ活動に係る送迎バス、タクシーの調整・運行依頼等

学校備品と地域クラブ活動備品の整理、練習会場の整備

年間の事業スケジュール

令和7年4月	教育委員会会議において現状説明
5月	地域指導者・部活顧問情報交換会
5月	県中学校体育連盟事務局との協議
6月	中学校長会と方向性の共有
	順次　各競技団体との協議
7月	関係競技種目　保護者説明会
8月	平日の活動開始（弓道、陸上競技）
8月	中学校長会への進捗状況の報告等 情報共有（課題等）
10月	平日の活動開始（ソフトテニス）
12月	中学校長会への情報共有（次年度体制）
1月	中学校長会への情報共有 （認定地域クラブ）
	中学校入学説明会（秋芳中）
2月	中学校入学説明会（伊佐中・美東中）
	地域スポーツ・文化クラブ活動体制整備 推進協議会
3月	中学校入学説明会（厚保中・大嶺中）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		10クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		10クラブ（9部活動）
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	60人	全体の運営スタッフ数	6人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
美祢サッカースクールU-15	市運営型（地域団体・人材活用型）	サッカー	平日2回 休日1回	18:00~20:00 11:00~14:00	1年 1人 2年 3人 3年 5人	通年	6人	6人 （内、兼務6人）	月2,000円	中体連：地域クラブ
美祢剣道クラブ	市運営型（地域団体・人材活用型	剣道	平日3回	9:30~12:30 17:30~19:30	1年 0人 2年 4人 3年 1人	通年	4人	6人 （内、兼務6人）	月1,000円	中体連：地域クラブ
JSA美祢	指定管理者	水泳	平日4回	18:45~20:15	1年 2人 2年 3人 3年 1人	通年	2人	2人 （内、兼務6人）	月5,500円	中体連：地域クラブ
MINEクラブ	市運営型（地域団体・人材活用型	軟式野球	休日2回	8:30~11:30 8:30~12:30	1年 4人 2年 11人 3年 13人	通年	2人	6人 （内、兼務6人）	月1,000円	中体連：地域クラブ

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
美祢ソフトテニスクラブ	市運営型（地域団体・人材活用型	ソフトテニス	平日2回 休日1回	8:30～ 11:30 19:00～ 21:00	1年　18人 2年　30人 3年　27人	通年 （平日は10月から）	14人	6人 （内、兼務6人）	なし	中体連：部活動
美祢繋心館	市運営型（地域団体・人材活用型	剣道	平日2回 休日1回	8:00～ 12:00	1年　1人 2年　9人 3年　3人	通年	4人	6人 （内、兼務6人）	月1,500円	中体連：地域クラブ
美祢地区弓道連盟	市運営型（地域団体・人材活用型	弓道	平日2回 休日1回	8:30～ 11:30	1年　12人 2年　10人 3年　5人	通年 （平日は8月から）	8人	6人 （内、兼務6人）	なし	中体連：地域クラブ
美祢ジュニア卓球クラブ	市運営型（地域団体・人材活用型	卓球	休日1回	8:30～ 11:30	1年　8人 2年　18人 3年　4人	通年	5人	6人 （内、兼務6人）	なし	中体連：部活動
美祢陸上競技クラブ	市運営型（地域団体・人材活用型	陸上競技	平日2回 休日1回	8:30～ 11:30	1年　8人 2年　11人 3年　2人	通年 （平日は8月から）	9人	6人 （内、兼務6人）	なし	中体連：地域クラブ
美祢バレーボールクラブ（男女）	市運営型（地域団体・人材活用型	バレーボール	休日1回	8:30～ 11:30	1年　19人 2年　8人 3年　12人	通年	6人	6人 （内、兼務6人）	なし	中体連：部活動

③その他、体験やイベント等の開催実績

〇学校部活動にないスポーツ活動への体験機会創出のため、市独自事業として「Mチャレ！チャレンジスポーツ」を開催
・水泳、ピックルボール

2.実証内容と成果

スポーツ庁

主な取組例

●美祢陸上競技クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技
運営団体名	市教育委員会
期間と日数	・4月～7月　週1回（休日） ・8月以降　　週3回程度 （平日2日、休日1日）
指導者の主な属性	市陸上競技協会
活動場所	学校施設
主な移動手段	スクールバス
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図

実施主体：美祢陸上競技クラブ
- ・活動計画
- ・指導、参加者、保護者への連絡
- ・大会参加申込み等

運営団体：市教育委員会
- ・運営体制整備
- ・指導者謝金の支払い
- ・保険加入　・連絡アプリ導入

●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：美祢陸上競技クラブの監督

●主任指導者

役割：美祢市教育委員会と連絡調整を行う

2.実証内容と成果

スポーツ庁

主な取組例

●美祢地区弓道連盟　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	弓道
運営団体名	市教育委員会
期間と日数	・4月～7月　週1回（休日） ・8月以降　　週3回程度 （平日2日、休日1日）
指導者の主な属性	市弓道連盟
活動場所	社会体育施設
主な移動手段	スクールバス
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図

実施主体：美祢地区弓道連盟
- ・活動計画
- ・指導、参加者、保護者への連絡
- ・大会参加申込み等

↑

運営団体：市教育委員会
- ・運営体制整備
- ・指導者謝金の支払い
- ・保険加入　・連絡アプリ導入

●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：美祢地区弓道連盟の監督

●主任指導者

役割：美祢市教育委員会と連絡調整を行う

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

現在休日の活動については、全て地域移行が実現している。

平日の活動が学校部活動として継続している種目について、各クラブ関係者と随時、地域展開に向けた協議を実施し、活動の状況を把握するとともに、安定した運営体制の整備等の調整を踏まえ地域展開を進めていく。

各地域クラブの活動状況や指導者数など実態に応じながら、持続可能な地域クラブ活動の実施に向け、できることを模索しながら取り組んでいる。

今後の取組における課題

平日の活動が、学校部活動として継続している種目について、平日を含めた地域クラブへの地域展開を推進するに当たり、指導者の確保が大きな課題となっている。

平日の活動を含めて地域移行を実現した種目についても、平日各学校で活動するにあたり、練習会場すべてに指導者が対応できる状態にないことから、持続可能な運営体制整備が課題となっている。

取組の成果

各地域クラブと協議を重ね、現状の活動に対する問題点の把握、解決に向け取り組んだ結果、令和7年度新たに2種目（弓道・陸上競技）が平日も含めた地域クラブへの地域移行を実現することができた。

また、種目によっては、指導者からの情報や競技種目経験者である近隣住民への声掛けを行い、新たな指導者が見つかったものもある。

少しずつではあるが、平日の活動も含め地域クラブへの地域移行が実施できていることから、学校教職員の働き方改革につながっている。

課題への対応方針

各地域クラブ及び競技団体に対し、指導者確保のため、関わりのある競技実施者等に声掛けをするよう依頼を継続する。

SNS等を活用し、広い範囲で指導者確保に努める。

各クラブの状況把握及び指導者等と意見交換を行い、持続可能な運営体制の整備に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

各地域クラブ活動の指導者との協議を各種目年2回程度実施。

各クラブの保護者に対する現状の説明や今後の活動方針について説明。

参加者の出欠、活動の実施報告を実施するための連絡ツールとしてアプリを導入し、地域クラブ指導者、保護者、学校、市教育委員会でのコミュニケーションツールとして活用。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

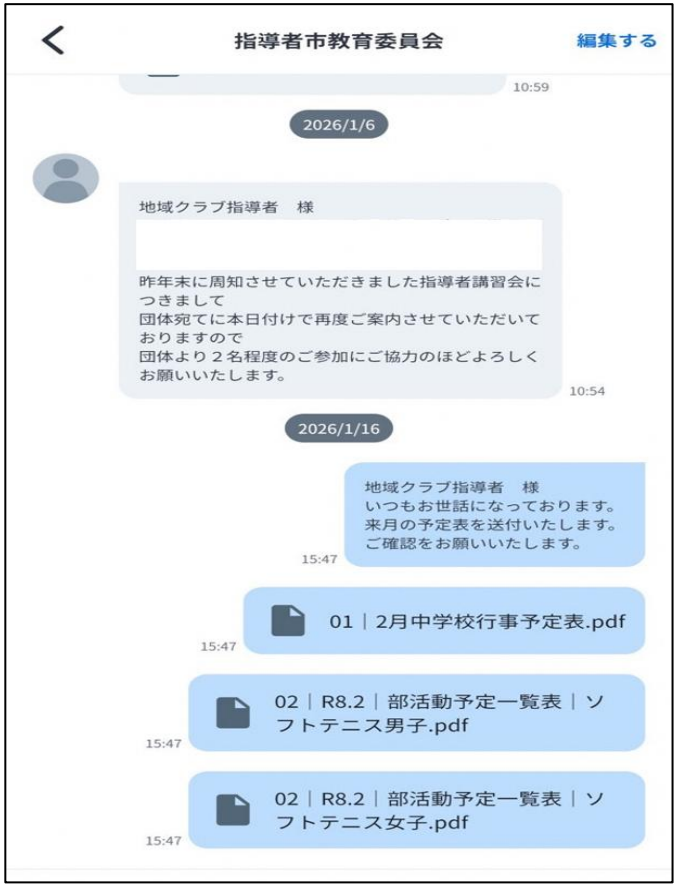
組織の透明化の確保のため、平日を含めて地域クラブとして活動する種目の実施主体において、規約や会則等の整備を行った。

実施主体における公正な指導体制構築のため、年2回の指導者研修会を開催した。

各種目の実施主体に係る情報を提供のため、各地域クラブの活動状況の説明や代表者、事務局体制について、地域クラブ活動の概要として市HPに掲載し生徒保護者への周知を行った。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

事故発生時等の保護者への連絡体制整備のため、緊急連絡網を作成し指導者と情報共有を実施。



【参考】

・アプリ内連絡機能　※指導者、学校、市教育委員会での連絡機能画面

・生徒保護者を含めた全体でのグループ　※情報の共有に利用

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

各地域クラブ及び各競技連盟、協会と連携を図る。

各種目単位で保護者説明会を実施、関係者間で新たな人材発掘に努める。

指導者の講習会を開催し、指導者のスキルアップを図る。

取組の成果

年度当初、各地域クラブ指導者に対し、ハラスメントに関する研修を実施。

年度末にメンタルトレーニング、スポーツ傷害・外傷（ケガ）予防についての研修を実施し、指導者スキルの向上に努めた。

指導者資格取得に関し、指導者及び競技連盟、協会への働きかけにより、3種目7名が指導者資格講習を受講した。

【指導者資格講習受講者】※すべてJSPO公認コーチⅠ

・バレーボール男子	1名	
・バレーボール女子	1名	
・ソフトテニス	2名	
・卓球	3名	計7名

今後の取組における課題

平日を含めた地域クラブへの地域展開を推進していくため、実施主体の整備として、指導者数の確保等が課題となっている。

地域クラブでの中体連主催大会への大会参加申請の際に、種目により指導者資格保有者が必須となっている種目について、資格保有者数を確保する必要がある。資格者が必須ではない種目についても、質の確保の観点から、資格受講を推奨する。

課題への対応方針

指導者確保のため、継続した競技連盟、協会への働きかけを行う。

指導者スキルの向上のため、指導者に対する研修会を継続して実施する。

中体連主催大会参加条件にある有資格者の有無に関わらず、指導者に対しては公認コーチ資格等公的な指導者資格を求めていくこととし、資格取得費用の補助については、指導者の金銭的負担軽減のための制度構築を引き続き検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

地域クラブ指導者及び各競技連盟、協会に対し、指導者の確保のため声掛けを継続して実施した。

市SNS等を活用し、広い範囲で指導者の募集を実施した。

指導者研修の内容

研修名	ハラスメント研修
講師	JSPOのオンライン講習
研修内容	・参加対象者：全地域クラブ指導者 ・オンラインでのハラスメントに関する説明動画

研修名	地域クラブ指導者研修会
講師	山口県スポーツ協会派遣講師　2名
研修内容	・参加対象者：各地域クラブ2名以上の参加 ・座学でのメンタルトレーニング研修 ・実技でのスポーツ傷害・外傷（ケガ）予防研修

指導者研修受講者の声

●参加者の声

参加者①
選手のメンタルを安定させるために指導者自身もメンタルをコントロールすること、先を見通して表情や振る舞いをコントロールして選手の前に立つことでその気持ちが選手に伝わることを感じた。

参加者②
パフォーマンスを上げるためにコンディショニングを大切にすること、骨や筋肉のつき方とその成長についての知識をもって選手を指導することの大切さを感じた。



【参考】
研修会当日の様子

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の資格取得促進に向けた取組

中体連主催大会の参加に有資格者が必要な種目の地域クラブ指導者に対し、資格取得促進し、費用負担について下記のとおり助成を実施した。

- 資格取得費用に対する取得費用全額の助成
- 資格講習会開催地までの旅費の助成

公認コーチ資格の取得については、中体連主催大会への参加条件に関わらず全ての指導者に対して資格取得を推奨。

指導者総数	75人
資格所持指導者数	6人
本年度指導者資格講習会に参加した指導者	7人

平日・休日の一貫指導に関する取組

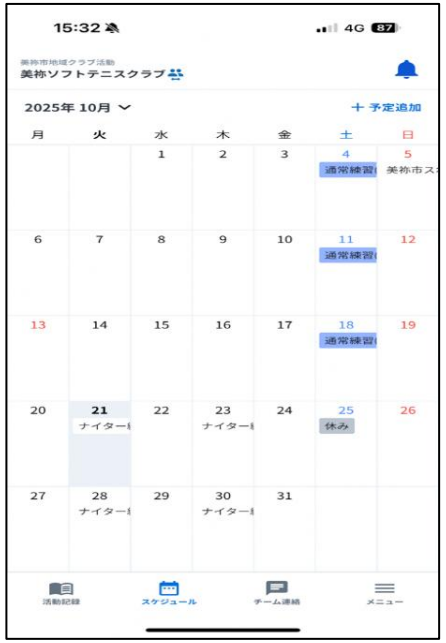
民間企業のアプリ「部活アプリ」を連絡ツールとして導入した。

地域クラブ指導者、保護者、学校教職員、市教育委員会で活動内容の共有や連絡手段として利用し、 地域クラブ参加出欠確認等についても、アプリ内で共有が可能となった。

学校部活動と地域クラブ活動が併存している種目については、アプリを通じ、学校部活動、学校行事予定の共有を実施した。

年度当初に学校と指導者で情報交換を行う場を設定し、現在の活動状況や課題の共有を実施した。

【参考】
・アプリスケジュール機能画面
※出欠の報告が可能



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

現在、地域クラブ活動として実施している種目や、普段学校部活動では体験できないスポーツの体験型イベントを開催。

【Mチャレ！チャレンジスポーツ】

・水泳（地域クラブあり）

※オリンピックメダリストを招聘し指導

・ピックルボール

【その他】

・卓球の無料体験教室（地域クラブ指導者主催）

取組の成果

普段の学校部活動に種目について、新しい体験、当該種目の普及につなげることができた。

基本的な対象者は小中学生であるが、保護者同伴での参加可とすることで、保護者にも体験の場を提供できた。

今後の取組における課題

体験した競技について、今後も継続して実施できるような環境の整備が必要。

対象を小中学生に限定しない、多世代が参加可能な取組を検討する。

課題への対応方針

地域クラブにない種目のみではなく、地域クラブの体験会や他の地域クラブの活動に参加する機会を創出できればよい。

取組の中で、継続した環境整備のため、世代間交流が可能な体験機会を創出すること、参加対象者の拡充を図る必要がある。

【今年度実施したピックルボール体験イベントの様子】



2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

地域クラブ活動の活動拠点として、学校施設を利用し、部室での物品管理や学校部活動で使用していた備品を活用する。

競技種目ごとにバランスよく活動場所を定めることで、雨天時等に活動場所の重複を避ける。

取組の成果

学校施設を使用する地域クラブの備品保管場所について、学校部活動で使用していた屋外部室を使用。学校の協力により、部室内を整備の上、備品保管場所として使用することが可能となった。

休日の地域クラブ活動の際に屋外部室を使用することとなり、地域クラブ指導者に対し、合鍵を必要数配布したことにより、円滑に活動を実施できている。

学校施設を活用するに当たり、学校までの登下校に使用するスクールバスを効果的に活用し、休日の活動に参加する生徒の送迎を円滑に実施することができ、保護者の負担軽減につなげることができた。

今後の取組における課題

各地域クラブの活動場所として設定した場所について、活動の状況や施設の状況により会場変更を希望する団体が出てきている。

活動の状況によっては、他の地域クラブが活動している場所での活動を希望しているクラブもあることから、会場の調整が求められている。

地域クラブが学校施設、学校備品を使用する場合の備品等の維持管理において学校との調整が必要。

課題への対応方針

全ての地域クラブが、円滑に活動が実施できるよう練習会場や備品等について調整を行う。

市内全域を地域クラブの対象地域としていることから、毎年各学校の参加生徒数や地域クラブ所属生徒数が変化するため、その状況に応じた対応を行う。

学校施設及び備品の使用の際の維持管理等において、教育委員会内での対応方針を検討する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

用具使用・管理等における取組

学校部室を使用した用具保管棚等を新設した。

屋外競技の活動においては、雨天時の体育館利用により活動を実施した。

令和7年度地域クラブ使用施設等一覧

種目	主な活動場所（晴天時）	主な活動場所（雨天時）	道具管理場所
剣道	美祢市武道場	美祢市武道場	美祢市武道場
剣道	美祢市来福センター	美祢市来福センター	－
サッカー	真長田グラウンド	真長田グラウンド	真長田グラウンド
水泳	宇部サンド温水プール	宇部サンド温水プール	宇部サンド温水プール
ソフトテニス	美祢中央公園テニスコート	美祢中央公園テニスコート	美祢中央公園設置倉庫
軟式野球	伊佐中学校グラウンド	伊佐中学校体育館	伊佐中学校グラウンド倉庫
卓球	伊佐中学校体育館	伊佐中学校体育館	伊佐中学校体育館
弓道	美祢市弓道場	美祢市弓道場	大嶺中学校屋外部室
バレーボール（男女）	大嶺中学校体育館	大嶺中学校体育館	大嶺中学校屋外部室
陸上競技	大嶺中学校グラウンド	－	大嶺中学校屋外部室

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組

取組事項

休日の地域クラブ活動場所への移動手段として、各学校が登下校で使用するスクールバスを活用し、各地域クラブ活動場所までの移動を行う。

市内在住の小中学生を対象に「美祢市どんどん巡ろうパスポート」を発行し、市内運行コミュニティバスの料金の免除を継続する。また、このパスポートでは、市内の体育施設及び一部の文化施設の使用料も免除となる。

取組の成果

広域にわたり市内中学校が点在する中で、上記2点の移動手段を確保したことに伴い、保護者負担の軽減、体験格差の解消が図られている。
あわせて、体育施設の使用料も免除となることから、地域クラブ活動に係る費用負担を軽減し、持続可能な運営体制の確保ができている。

今後の取組における課題

毎年各中学校の生徒がどの地域クラブへの参加を希望するかに応じ、移動手段の運行スケジュールなど適宜調整が必要。

課題への対応方針

料金を無料としたコミュニティバスの利用を促進するなど、保護者の負担軽減、移動手段を原因とする体験格差の更なる解消を図る必要がある。

美祢市どんどん巡ろうパスポート　イメージ



2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本市が目標としていた、令和7年度の新チームを目途とした全ての種目の地域移行については、実現が叶わなかった。

部活動の地域移行に当たり、人口規模の小さい自治体では、指導者の確保が大きな懸案事項となっている。その中で、今年度新たに2つの種目において、平日の活動を含めた地域移行を実現することができた。

地域移行が叶わなかった種目については、平日の活動に対する運営体制の整備が出来なかったこと、中体連主催大会の参加条件となる公認コーチ資格を有する指導者の確保が困難であったことによるものである。引き続き指導者の確保に努めていく必要がある。

本市は、市内中学校が5校、うち1校に過半数が在籍、中学校施設が広域にわたり点在している。その中で、移動手段の確保のため、休日の活動に対しスクールバスを活用し、各学校から活動場所までの移動手段の確保ができているため、保護者負担軽減の観点から引き続き継続する必要がある。

全ての地域クラブ活動に対し、引き続き長期的な目線で持続可能な運営体制の構築が必要となる。

●成果の評価

〇各チームの指導者が一同に会する場の設定、指導や運営に関して情報交換をする場の設定が構築でき、定期的に市教育委員会と協議する場を設けている。

〇連絡アプリを通じて、生徒保護者、地域クラブ指導者、学校、市教育委員会の連絡手段を確保。練習日程等の共有やクラブ活動への参加出欠などをアプリ内で行うことにより、情報の共有が図られてきたが、更なる活用を推進していく必要がある。

●今後に向けて

〇令和7年度新チームを目途に学校部活動の地域移行を目指してきたが、平日の活動について体制整備が叶わなかった種目については、学校部活動を継続することとなる。令和9年度の地域展開を目指し、今後も持続可能な体制整備の構築を実施する。

〇中体連の参加資格有無に関わらず、地域クラブ指導者には公認コーチ資格取得を推奨し、安心・安全な指導体制の構築を行う。

〇安定した指導者数の確保に当たり、市教育委員会、地域クラブ、各競技団体や連盟において継続して指導者を探す必要がある。

〇令和8年度以降、交付金だけに頼らない、持続可能な自主財源の確保の検討

〇「地域移行」から「地域展開」へ名称変更する中で、地域の関わりや学校との連携を図るため、更なる調整が必要。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

参考資料



【美祢ジュニア卓球クラブ：活動状況】



【美祢サッカースクール：活動状況】



【美祢バレーボールクラブ（男子）：活動状況】



【美祢地区弓道連盟：活動状況】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年	令和5年		令和6・7年	令和8年
協議会設置、拠点校において実践研究を実施	（美東中） 受け皿団体や指導者の選定、拠点校の選定	学校現場との調整	生徒、保護者への説明	地域クラブ活動の開始、拡大	地域クラブ活動の拡大、持続可能な体制整備の推進

●各種目連盟・協会との協議

●経過

現状の部活動を地域移行させるため関係団体との協議。推進協議会の立ち上げ、方針説明、ロードマップ作成、コーディネーターの配置。

●実施にあたって生じた課題

指導者の絶対数の不足。

部活顧問と地域指導者の指導方針のすり合わせ。

事務局機能をどう設置するか。

●実施内容、工夫した点 等

研究推進校の指定、知見の拡大、指導者・顧問の情報交換会開催。

●市内中学校教職員

●経過

市としての地域移行の方針や方向性を市内中学校教職員と共有。

●実施にあたって生じた課題

・説明の場の設定。

・校長会との情報共有。

・中体連役員との情報共有。

●実施内容、工夫した点 等

コーディネーターが各中学校の職員会議の時間を活用し、説明を実施。

ほぼ同時期に説明を実施することで、情報の時間差を軽減させる。校長会へ出向き、方針の説明や協力を依頼。

●保護者・地域住民

●経過

基本制度の設計を示しながら、指導者・受け入れ団体が決定した種目から保護者説明会を開催。

平日・休日を含めた活動の実施体制が整った地域クラブから順次保護者説明会を開催。

●実施にあたって生じた課題

競技種目により中体連主催大会への参加にあたり、指導者の公認コーチ資格の取得義務が発生。

指導者の絶対数の不足。

学校との連携。

●実施内容、工夫した点 等

学校施設、部室等の利用調整。

●令和6年度休日の地域クラブ活動移行種目

剣道、水泳、サッカー、軟式野球、バレーボール、陸上競技、弓道、ソフトテニス、卓球

●令和7年度平日の地域クラブ活動移行種目

剣道、水泳、サッカー、軟式野球、陸上競技、弓道、卓球

●令和8年度に平日の地域クラブ活動の地域展開を予定している種目

ソフトテニス

●令和8年度中に平日の地域クラブ活動の地域展開を予定している種目

バレーボール、卓球

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

